

2014年3月期 第1四半期業績概要

2013年 8月1日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



Anritsu Discover What's Possible™

1

Financial Results FY2013 1Q
Copyright© ANRITSU

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

I . 2014年3月期 第1四半期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

I -3. 2014年3月期 通期見通し

II . 計測事業の成長ドライバー

Appendix

I -1. 事業概要



(セグメント別売上比率) **2013年3月期 実績(連結)：947億円**

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア、パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
-----------	-------------------	-----------	-------------

(ノート部記載なし)

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバーとして
計測事業が堅調に推移

セグメント	2014年3月期第1四半期(4月～6月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル:LTE開発用、スマホ製造用需要が堅調 ・ネットワーク・インフラ:基地局整備の投資が堅調 ・エレクトロニクス:顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本:モバイル関連投資が大幅に減速 ・アジア:製造用・開発用のモバイル関連が堅調 ・米州:スマホ開発・基地局整備の投資が牽引
産業機械	総じて堅調に推移

計測事業の約50%を占めるモバイル計測事業が、引き続き業績を牽引しました。成長ドライバーは、LTE方式の開発需要、スマートフォン(スマホ)の開発、製造の各用途市場、周波数再編や接続品質改善の無線ネットワークの整備化投資です。

一方で、市場別、顧客別によって投資動向、投資規模に大きな変化や差違が見られるようになってきました。2012年度と同様に、LTE開発用途、端末の開発、製造の各市場とも活発な動きが見られたのは、北米市場、アジア市場でした。それに比して、日本市場のスマートフォンベンダー、オペレーターはともに、前年同期比で設備投資を大きく縮減しました。

産業機械事業は、日本市場、北米市場を軸に堅調に推移しました。その他事業の情報通信事業は、公共投資予算の執行に関わる要素が大きいため前年同期と同様の水準でした。

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	242	253	11	5%
売上高	216	224	8	4%
営業利益	40	25	△15	△38%
税引前利益	35*	27	△8	△24%
当期利益	25	16	△9	△36%
当期包括利益	17	27	10	62%
フリーキャッシュフロー	41	29	△12	△28%

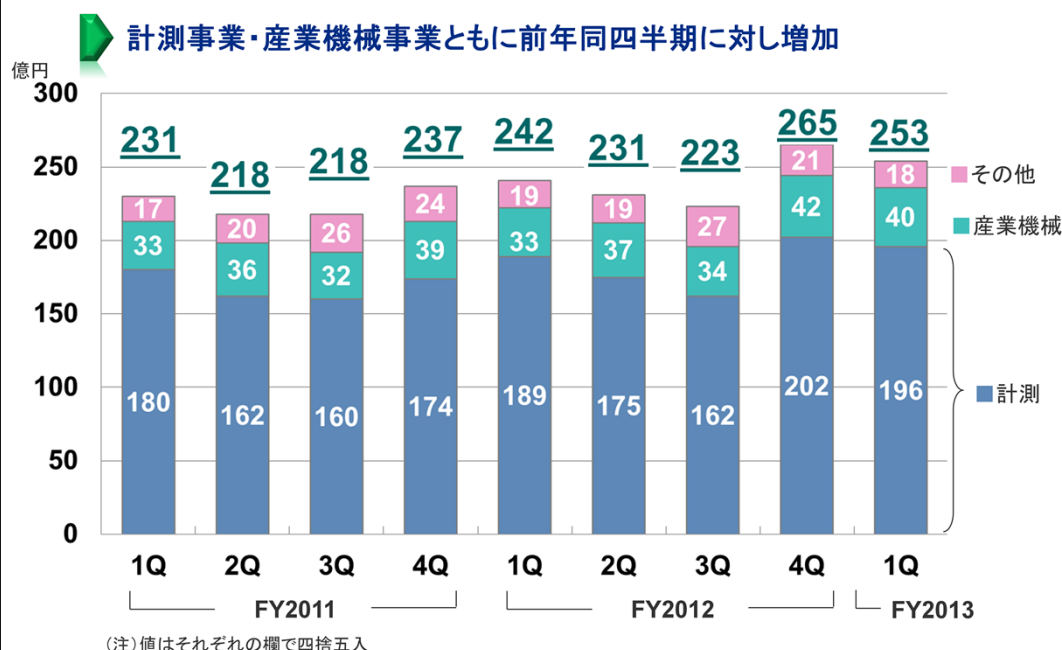
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

*前第1四半期の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正再表示しています。
(修正前数値:税引前利益36億円)

受注高は、前年同期比5%増加の253億円でした。

売上高は、前年同期比4%増加の224億円でした。海外の顧客対応のための体制を拡充したため、その関連の費用が増加したこと、くわえて海外グループからの調達費用が円高修正(円安)によって増加したため、営業利益は前年同期比38%減少の25億円となりました。税引前利益は、円安に伴う為替差益が金融費用を上回り、27億円となりました。四半期利益は前年同期比36%減少の16億円でした。包括利益は、在外営業活動体の為替換算差額10億円を計上した結果、前年同期比62%増加の27億円となりました。

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



Anritsu Discover What's Possible™

7

Financial Results FY2013 1Q
Copyright© ANRITSU

計測事業の受注高は、前年同期比4%増加の196億円でした。産業機械事業の受注高は、前年同期比21%増加の40億円でした。グループ全体としても前年同期比5%増加の253億円でした。

計測事業の第1四半期の受注高は、前年同期を上回る水準を確保しましたが、堅調な北米市場、アジア市場の受注が日本市場の落込みを補う結果となりました。2012年度第1四半期の日本市場でのモバイル関連の設備投資が活発であったこともあり、前年同期と比較して、市場別の受注動向は大きな変化となりました。

産業機械事業は、日本の大手食品メーカーの設備更改需要に堅調さがみられます。

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位: 億円)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	170	178	8	5%
	営業利益	40	27	△13	△32%
産業機械	売上高	29	30	1	5%
	営業利益	△0	△0	0	-
その他 (含: 内部消去)	売上高	18	16	△2	△10%
	営業利益	△0	△2	△2	-
合計	売上高	216	224	8	4%
	営業利益	40	25	△15	△38%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

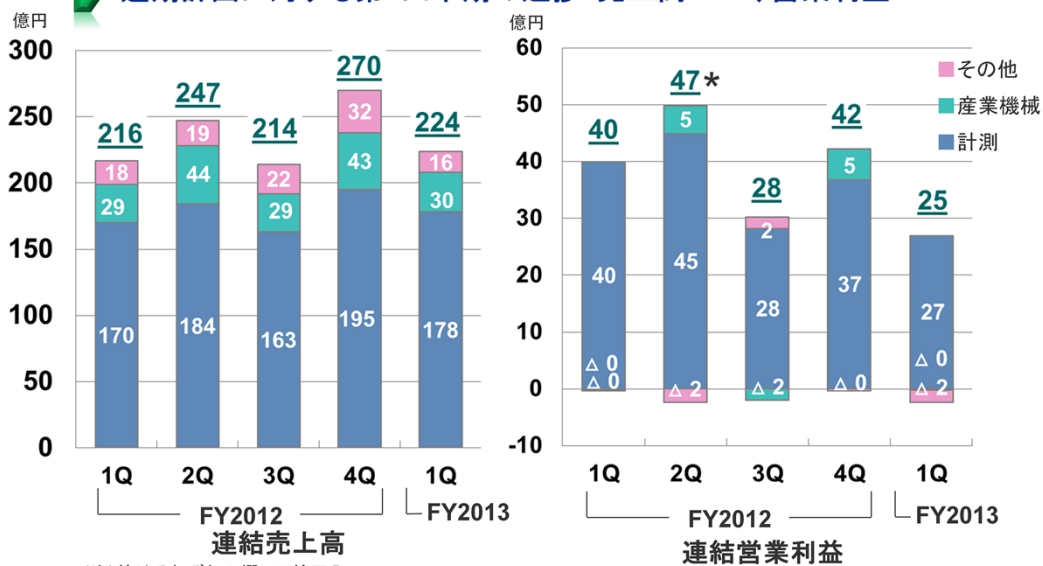
計測事業は、前年同期比5%の増収の売上高178億円となり、営業利益27億円、営業利益率15.2%でした。

計測事業の営業利益率15.2%の水準については、円高修正(円安)に伴う増益要因はあるものの、海外顧客に対応するためのローカル体制の拡充に関連した人員と費用の増加が円安要因を上回った結果であり、これらの戦略投資は先行投資となっています。

産業機械事業およびその他事業ともに、売上高、営業利益は前期並みの水準でした。

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 通期計画に対する第1四半期の進捗: 売上高22%、営業利益15%



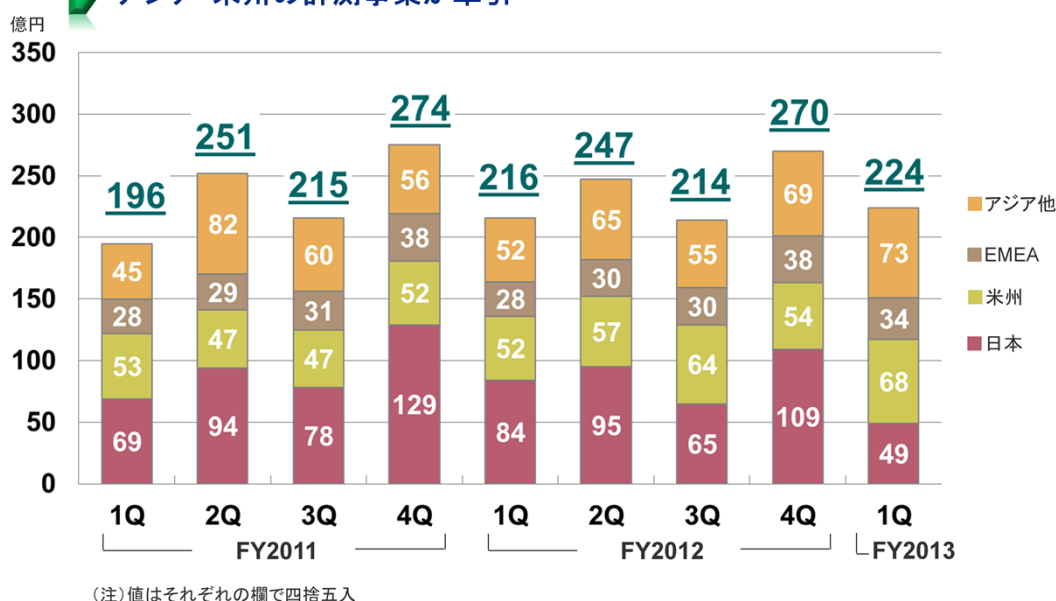
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正再表示しています。(修正前数値: 2Q連結営業利益48億円)

四半期単位の利益率は、市場ミックス、事業ミックス、プロダクトミックス、季節変動などにより変動します。なお、第1四半期の2013年度通期計画に占める進捗率は、売上高で22%、営業利益で15%でした。

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

アジア・米州の計測事業が牽引



Anritsu Discover What's Possible™

10

Financial Results FY2013 1Q
Copyright© ANRITSU

地域別の売上高構成比率に占める日本市場の割合は、2012年度通期の37%、同第1四半期の39%から、2013年度第1四半期は22%まで、大きくシェアを低下させました。日本市場での売上高は前年同期比で42%の減収となりました。

これは、日本の有力なプレイヤーによる、事業再編およびスマホ開発体制の縮小や製造ラインの設備投資抑制による影響です。一方で、米州市場はLTE関連の開発需要が引き続いて伸長しました。アジア市場ではLTE開発用途およびスマホ製造市場の両面で動きが見られるなど、前年同期比で増加しました。

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

内訳

単位: 億円 △減少

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2013 Q1

①営業CF: 44億円

②投資CF: △14億円

③財務CF: △20億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 29億円

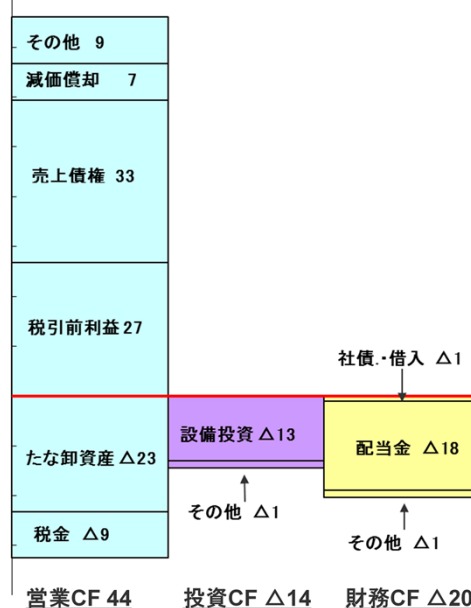
現金同等物期末残高

391億円

有利子負債高

193億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、年度始めの第1四半期という季節的要因もあり、売上債権の回収が進み、税引前利益の増加もあり、44億円の資金獲得となりました。営業キャッシュフロー・マージンは19.5%となりました。

投資キャッシュフローの設備投資13億円のうち、主なものは福島県郡山市における新工場建設のための費用8億円です。なお新工場は、2013年7月初旬に稼動しました。

その結果、フリー・キャッシュフローは29億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの20億円の資金流出のうち、主なものは配当金の支払い18億円です。これは、前年度の期末配当、1株あたり12円50銭の支払い分です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より15億円増加の391億円となりました。

I -3. 2014年3月期 通期見通し(連結)

4月開示より変更なし

(単位: 億円)

		2013/3期		2014/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		947	1,020	73	8%
営業利益		157*	170	13	8%
税引前利益		161*	165	4	2%
当期利益		139	115	△ 24	△ 17%
計測	売上高	712	770	58	8%
	営業利益	150	155	5	3%
産業機械	売上高	144	155	11	7%
	営業利益	8	10	2	23%
その他	売上高	90	95	5	5%
	営業利益	△ 1	5	6	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=90円
1ユーロ=120円

* 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正再表示しています。
(修正前数値: 営業利益158億円、税引前利益162億円)

2013年度の通期業績の見通しは、4月25日に発表した計画と変更はありません。

下記のとおり、現下の状況は年初計画の前提とは異なる要素もありますが、年初計画の達成に向けて、組織を挙げて取り組んでいく所存です。

アンリツグループの業績を牽引しているモバイル計測事業のメガトレンドに大きな変更はありません。しかし外部環境とりわけ顧客の競争地位や投資姿勢は、刻々と変化しています。LTE方式の開発と普及に係わる投資は、引き続き一層の拡大が見込まれます。とくに今期は中国でTDD-LTEのサービスが始まるのが期待されます。スマートフォンの普及は、米国、日本、欧州などの高価格帯のハイエンド・スマホ市場の成長率が鈍化する一方、中国、インドそして新興国では中価格帯、低価格帯のスマホ市場が急速に拡大しています。拡大する市場がある一方で、日本の顧客の想定以上の投資抑制や新たな事業再編報道があるなど、日本市場では苦戦を強いられています。

このように成長市場といえども、市場と顧客の動向が目まぐるしく変化しているのが実態です。外部環境の変化はアンリツの事業リスクでもありチャンスでもあります。アンリツは、このような市場変化に的確にスピーディに対応し、適切な施策と投資を行うことで、事業リスクを成長機会へと結び付けていきます。

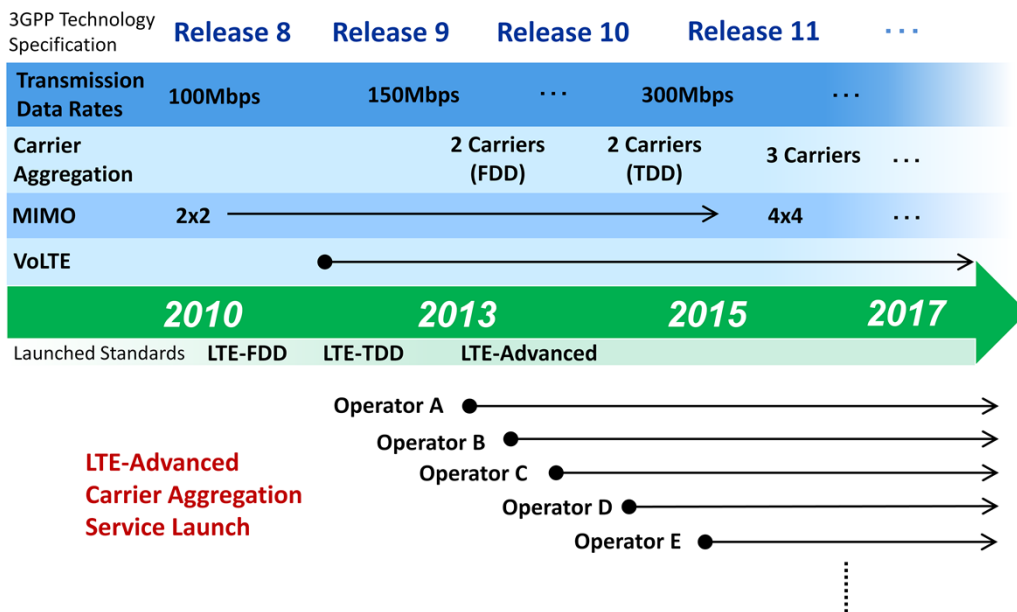
Ⅱ．計測事業の成長ドライバー

次のスライド以降で、LTE開発市場をめぐる最新動向について紹介します。

私どもの計測事業の成長ドライバーについてのご理解の一助になれば幸いです。

株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2014年3月期第1四半期の業績報告とします。

Ⅱ. LTE技術の進化と実用化のロードマップ



(ノート部記載なし)

Ⅱ. TDD-LTEサービスの本格スタート

世界で18事業者が商用サービスを開始、41事業者が導入を計画

■ 中国市場の動向

- 2013年中にTDD-LTEライセンス認可の見通し
- チャイナ・モバイルがTDD-LTE基地局20万基の入札開始、国内約100都市・人口カバー5億人のLTE網の構築を計画
- スマートフォンの中国国内出荷量は前年同期比2.3倍(1-5月: 約1.8億台)、TD-SCDMA端末は2.7倍(同: 約0.8億台)、2013年の需要は3.2億台の見通し(世界シェア約30%)

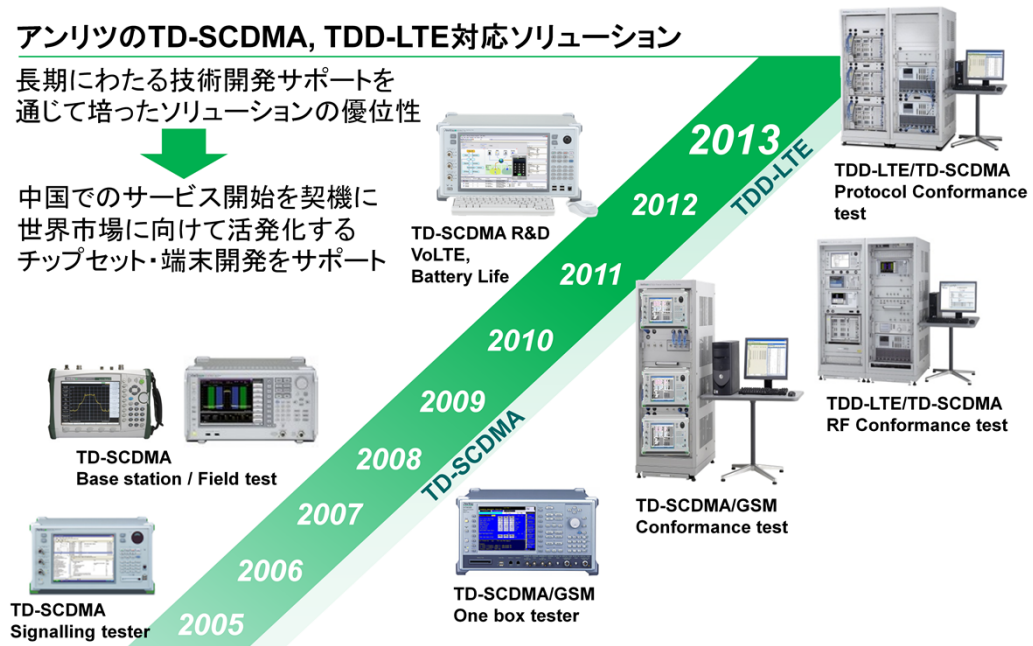
(ノート部記載なし)

II. TDD-LTEは中国での導入を機に世界で進展

アンリツのTD-SCDMA, TDD-LTE対応ソリューション

長年にわたる技術開発サポートを通じて培ったソリューションの優位性


中国でのサービス開始を契機に世界市場に向けて活発化するチップセット・端末開発をサポート



(ノート部記載なし)

Ⅱ. LTE-Advanced (LTE-A) 関連市場の動向

世界12カ国17事業者がサービス導入を計画・準備



■ 2013年6月、SKテレコム(韓国)がキャリア・アグリゲーション技術を採用したLTE-A商用サービス開始

■ 日本: 2015年に商用化見通し

➤ NTTドコモ、ソフトバンク、KDDIが実証実験を開始

(ノート部記載なし)

Ⅱ. アンリツのLTE-Advancedソリューションへの取り組み

コア開発、規格適合試験、オペレータ受入試験、端末製造の各分野をサポートするソリューションを拡充

- ▶ LTE-Advancedにおけるキャリア・アグリゲーション機能のRF規格適合試験において、業界で初めてPTCRB（北米の認証機関）の認証を取得



Chipset Protocol



RF Parametric Production



Conformance



Carrier Acceptance



(ノート部記載なし)

(Appendix)
郡山第二事業所、産業機械上海工場を開設(2013年7月)



郡山第二事業所



産業機械事業 上海工場

(ノート部記載なし)

